＜三ツ沢公園（神奈川県横浜市）＞

＜日比谷公園（東京都千代田区）＞

事例紹介９　地域の取組

青森県における自殺対策の取組について
～市町村の自殺予防活動を中心に～

青森県の自殺者数は、平成14年に500人を超え、15年の576人をピークに減少傾向となり、18年は440人と、前年に比べ87人の大幅な減少となりました。自殺死亡率は、平成14年から17年まで全国ワースト２位となっていましたが、18年は、全国ワースト６位と改善されています。

本県の自殺予防対策は、自殺者数の増加を受けて、平成13年１月策定の「健康あおもり21」において自殺予防を心の健康づくりの重要課題と位置付け、高齢者対策、壮年期対策と取組をすすめてきました。

また、地域における自殺予防対策は、市町村が中心になって、心の健康に関する意識調査の実施やうつ病予防とその対応等の普及啓発などに積極的に取り組み、県立精神保健福祉センターと保健所が、地域の実情にあわせた一次予防から三次予防の展開をバックアップしてきました。

さらに、平成18年度には、県内市町村長の自殺予防に対する意識を高めるため、「自殺予防トップセミナー」を開催し、直接、市町村長へ自殺予防の啓発を行ったほか、警察本部の協力を得て、自死遺族の方へ「こころの相談窓口」を記したリーフレットの配布を行っています。

このような取組の結果、県内40市町村のうち、平成14年度は１町のみであった自殺予防活動に取り組む市町村数が、18年度は22市町村と増加し、市町村における自殺

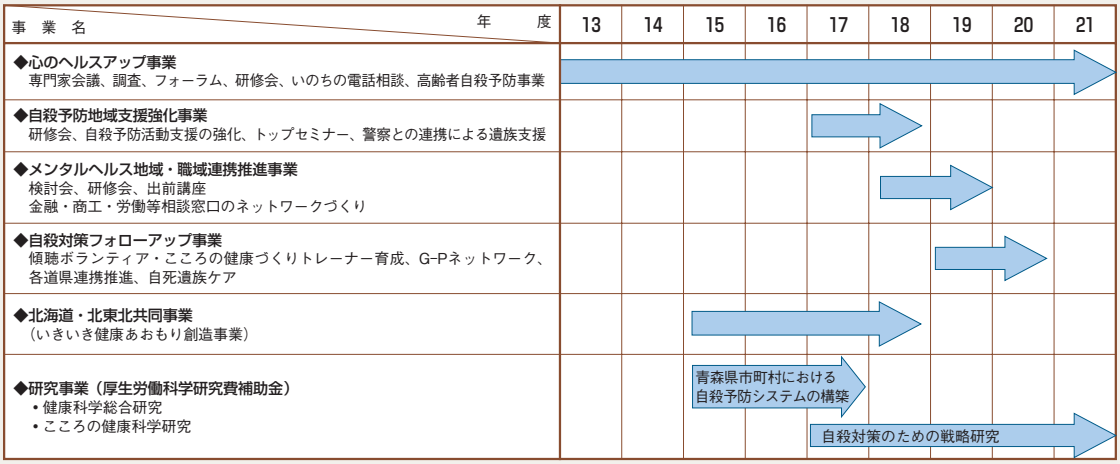
＜平成18年度自殺予防トップセミナー開催風景＞

＜こころの健康づくりトレーナー研修開催風景＞

対策の推進が図られているものと考えています。

平成19年度は、気軽に相談できる相談窓口を整備する「傾聴ボランティア」や「心の健康づくりトレーナー」等、身近に相談できるスタッフの育成を行うとともに、自死遺族への支援を充実するために、自死遺族等のつどい、相談会を開催することにしています。

＜青森県の自殺対策事業の経過＞



（青森県健康福祉部障害福祉課）

事例紹介10　地域の取組

秋田県の自殺予防対策について

平成18年の自殺者数は二年連続の減少から増加に転じ、482人と多くの県民が自らの命を絶っています。自殺問題は県の喫緊の課題であります。

本県の自殺対策の特徴は、１）秋田大学との緊密な連携の下に対策の推進が図られたこと、２）対策の立ち上げに当たり知事が強いリーダーシップを発揮したこと、３）報道機関が後押しをしたことが挙げられます。

本県では、「健康あきた21計画」及び「秋田県健康づくり推進条例」で自殺予防対策を重点課題として掲げ、全ての世代における自殺者の減少を目指して事業を推進しています。対策の方向性を明確にするため、⑴「情報提供・啓発」、⑵「相談体制の充実」、⑶「うつ病対策の推進」、⑷「自殺予防事業の推進」、⑸「予防研究」の５点を重点施策として位置付けています。

特に、自殺予防事業の推進の一環として市町村が実施している「自殺予防対策モデル事業」については、自殺者数の減少や自主的な住民活動

＜全国キャラバンの会場風景／ネットワークの皆さん＞